

アメリカのナーシングホームにおけるケアの質マネジメントシステム(2)

- 現場マネジャーらによる現状評価と日本への導入課題 -

伊藤美智予¹⁾ 近藤克則²⁾ 澤田如¹⁾

¹⁾日本福祉大学大学院、²⁾日本福祉大学

キーワード: アメリカ、ナーシングホーム、ケアの質

【背景・目的】

アメリカの全てのナーシングホーム(以下、NH)には、報酬支払い側である CMS(Centers for Medicare & Medicaid Services) によって開発された個票レベルの MDS (Minimum Data Set) や Quality Measures (QMs : MDS から作成されたケアの質の評価指標) を活用する国レベルの総合的なケアの質マネジメントシステムの使用が義務づけられている(第一報参照)。一見素晴らしいシステムだが、強制されているNHの側に不満や効果に対する疑問が渦巻いている可能性がある。

そこで、このシステムに対するNHの側からみた評価と、日本に導入する場合の課題を探る目的で、現地ヒアリング調査を実施した。

【対象・方法】

西海岸に位置する3つのNHのスタッフ(施設長から現場マネジャークラス)13名を対象に、ヒアリング調査を実施した。

主な調査内容は、次の4点である。(1) マネジメントシステムへの全体的評価、(2) MDS の使用義務化について、(3) QMs 指標を用いたケアの質評価について、(4) Nursing Home Compare (監査や QMs の評価結果に関する情報が入手できる NH 比較ウェブサイト) について。

【結果】

上記(1)については、積極的評価7名、中立的評価3名、消極的評価3名であった。(2)では、アセスメントするのに時間と人手がかかることが問題とする意見が多数聞かれた。(3)については、州内のNH中の自施設の位置づけが確認できる点などで有用とする意見がある一方、QMs はケアの質の一部を評価しているに過ぎないなどの問題点も指摘された。(4)では、評価結果が施設の機能別で示されていないため、指標の解釈には留意が必要などの意見が聞かれた。

【考察】

日本への導入の課題として、1) 全入所者のデータ提出義務化、2) 現場が納得するケアの質評価指標の開発、3) 評価結果からケアプランを見直しプロセス改善につなげる方法の開発、4) 他施設との比較することができるシステムの開発、5) 施設側が必要なときに欲しい情報を入手できる大規模な情報システムの構築などが考えられた。

【結論】

今回の調査結果に基づけば、アメリカで導入されているNHのケアの質マネジメントシステムは、NHの側から見てもケアの質向上につながるという積極的な評価が多かった。いくつかの課題はあるものの、日本においてこのようなシステム導入を検討する価値はあるように思われた。